第46回岩手県高等学校選抜剣道大会観戦記

審判長　　　西　田　　裕

本大会は、新緑薫る例年5月、岩手医科大学剣道部の全面的なご支援を賜り開催されており、県内高校より男女各16校を選抜し、岩手県唯一の勝ち抜き戦として今回で46回を数える伝統ある格式高い大会である。

また、直後に行なわれる高校総体の行方を占う上で、その前哨戦としても重要な位置づけとなる大会である。

試合は、男子は選手層の厚い盛一が順当に駒を進め、花北、福岡、盛四が勢いに乗り上位をうかがい、女子は有望新人の一年生4人を揃えた盛南が、頭ひとつリードの盛北、福岡、白百合の三強に割って入る展開となった。

結果は、男子決勝戦で、昨夏の高総体優勝メンバーを揃えた盛一が、序盤戦から優位に立ち、最後は副将・熊谷が、粘る福岡の大将・佐藤を破り自陣大将を終始不戦のまま優勝を決めた。

女子決勝戦は、他を寄せつけない安定した戦いぶりで勝ち上がった福岡と、準決勝で第一シード盛北を下し波に乗る盛南との対戦。福岡は、盛南の新人らしい捨て身の攻めに苦戦をしいられるも、最後は大将・阿部が盤石の試合運びで盛南の中堅以下三人を連破し貫録の逆転勝ち。

全体を通して特筆すべきは、男子では福岡先鋒・瀧澤と、女子の盛南中堅・小林、両一年生の積極果敢な試合ぶりである。両名は、いずれも71岩手国体強化選手として将来を嘱望される選手としてその潜在能力をいかんなく発揮し活躍した。このことが、目下県剣連をあげて取り組んでいる国体強化に向けての大きな弾みとなることを期待したい。

しかしながら、総合的に観れば、男子の上位チームはそれなりのレベルで実力が拮抗しており、質の高い試合がいくつか見られたものの、女子についてはやや低調の感は否めない。

審判長として、壇上からの観戦ではあるが、特に技術面についての総評をすれば、せっかく自分から仕掛けた打突後に、そのまま鍔迫り合いとなってしまう試合を多く見受けた。いわゆる二の矢、三の矢となる技が皆無に近く、全般に手数が少なすぎる。この点において全国トップクラスの強豪校に比べるとかなり見劣りがする印象を受けた。

一本とならなかった打突後は、瞬時に相手を崩し、すかさず技を繰り出し、その一連の流れから有効打突を生み出すということを念頭に置き、今後の稽古の課題としてぜひ取り組んでいただきたい。但し、それには強靭な体幹と正確な竹刀操作が求められるため、日頃から激しい切り返し、ぶつかり、懸かり稽古は必要不可欠であることも申し添えておきたい。

結びに、本県剣道発展の為、今回も大会運営の一切を取り仕切っていただいた岩手医科大学剣道部の皆様方と、審判の労をお執りいただいた先生方に深甚なる敬意を表し観戦記とする。